

守る会はマンション建設について  
「御了解」などしていません。  
フェンス撤去は当然のこと。荒川建設は  
住民の分断策動をやめよ。

2013年9月23日 「王禅寺・上麻生の住環境を守る会」事務局

### 住民生活に支障をきたすフェンスの無条件撤去は当然

荒川建設は9月19日付で、以下の「仮囲い移設工事のお知らせ」なる文書を近隣に配布しています。

この度、荒川建設工業株式会社と「王禅寺・上麻生の住環境を守る会」の王禅寺側の住民の方々と、「(仮称)デュークガーデン上麻生マンション」の建設について、円満に話し合い、御了解をいただきました。／つきましては、王禅寺側のみなさんのご要望の通り、当社建設地と上麻生111号線の境界に建てられた安全用の仮囲い鋼板を道路使用上の便宜をはかるため、当建設地内に車の通行に支障がない程度下げさせていただくことになりました。

そもそも王禅寺側道路のフェンスは、住民の生活に大きな支障をきたすものであり、マンション建設とは切り離して、すみやかに撤去するよう守る会は荒川側に申し入れてきました。ところが荒川側は「フェンスの一方的な撤去はできない。反対看板をはずすなどの合意が文書で交わされた後、お互い同時できない」とできない(3月31日の事務局交渉)と拒否してきました。先日の第3回説明会で、荒川側は「道路の関係者との話し合いをし、まとめれば移設に向けて行動して行く」と返答したため、守る会も「車を通れるようにするということ、早急にやってもらいたい」と確認をしました。

### 守る会との話し合いは拒否して、一部住民の「了解」で建設はあり得ません

尾根道沿いの住民の大半が「円満に話し合い、御了解」したかのように書いています。そんな事実はまったくありません。現に「道路関係者」であっても、荒川建設は話し合いに来なかった、という抗議の声があがっています。

荒川建設は、2月のフェンス強行設置の際、土砂崩れの防止などのもっともらしい理屈をつけていました。しかし今回のやり方は、フェンス設置が反対運動つぶしのための駆け引きの材料として計画し実行された、ということをついそう明らかにしました。

一部の近隣住民のお宅を訪ね、「工事協定書にハンコを押して欲しい。押印してくれば迷惑料を渡すので、ノボリを下げてほしい」という住民分断策と軌を一にするものです。

荒川建設は「改正条例に合わせる変更はしない」「立体模型は造らない」「盛り土、切り土の総量は変わるので工事説明会までは報告をしない」など、住民の切実な要望に一切答えようとしていません。「建設計画に同意し反対しない人しか交渉相手にしない」という態度は許せません。まずすべきは「王禅寺・上麻生の住環境を守る会」との話し合いです。たとえ一部近接住民との「了解」を取り付けたとしても、守る会事務局は、計画説明会の続行と「建築計画の抜本の変更」を求めていきます。荒川建設の住民の分断、切り崩し策動に乗せられることなく、最後まで守る会として団結して行動してゆきましょう。